

第52期（2025年12月期）第2四半期 決算補足説明資料

ヤーマン株式会社

2025年12月12日

美しくを、変えていく。

美しさを実現するものづくり。

それを生むのは、尽きることのないアイディアと卓越した開発力です。

理想の美しさをかなえ、世界中に夢や驚きを届けるために、

私たちは新しい「美のカタチ」を追求し続けます。

決算の概要

(百万円)	第51期 2Q累計	第52期 2Q累計	対前年	主な増減コメント
売上高	12,718	11,511	△1,206	新規取引先開拓の遅れやインバウンド客の落ち込みなどが影響したこと等から減少。 売上構成は、美容機器78%・化粧品18%・その他4%
売上総利益 (売上総利益率)	7,297 (57.4%)	6,673 (58.0%)	△624	売上総利益は、利益率の高い直販部門で利益最大化のための広告投資抑制を行ったことにより、売上総利益率は確保できたが減少。
販売費及び一般管理費	6,653	7,833	+1,180	国内広告宣伝費投資はより効率重視。その一方で、海外は、中国最大のECセール「618」商戦における広告宣伝費増加。
営業利益 (営業利益率)	643 (5.1%)	△1,160 (△10.1%)	△1,804	
経常利益	285	△1,131	△1,417	持分法投資損失の減少や前期から円安傾向となり為替差益を計上。
四半期純利益	6	△1,196	△1,203	
1株当たり四半期純利益 (円)	0.12	△21.75	△21.87	

国内は、新規取引先開拓の遅れやインバウンド客の落ち込みなどが影響したこと、前期に買収して連結子会社化した株式会社forty-fourとの共創を目指し、商流の整理を行う過渡期となったことなどから減収減益。

海外は、中国国内の化粧品・美容機器市場の低迷の影響はあったが増収、その一方で中国最大のECセール「618」商戦における広告宣伝費の増加などにより減益。

(百万円)	売上高			営業利益		
	51期2Q	52期2Q	対前年	51期2Q	52期2Q	対前年
通販部門	2,147	1,157	△990	616	306	△309
店販部門	3,985	3,168	△816	748	287	△460
直販部門	3,486	3,656	+170	639	372	△267
海外部門	2,986	3,102	+115	985	7	△978
その他	112	427	+314	38	206	+168
調整額※	—	—	—	△2,383	△2,340	+42
合計	12,718	11,511	△1,206	643	△1,160	△1,804

(百万円)

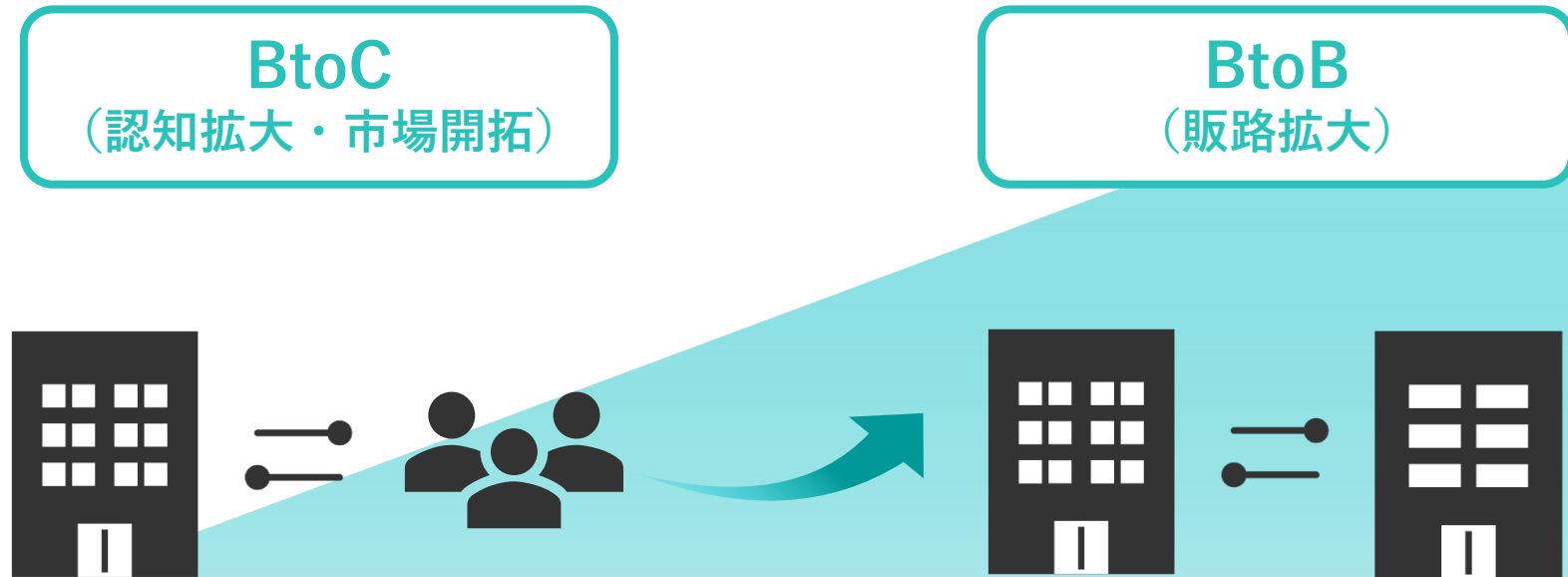
	25年 4 月末	25年 10月末	増減		25年 4 月末	25年 10月末	増減
流動資産	25,640	24,355	△1,285	負債	3,539	3,554	+15
現預金	16,968	15,388	△1,580	仕入債務	1,030	1,422	+392
売掛債権 貸倒引当金	3,943 —	3,314 —	△629 —	有利子負債	595	449	△145
棚卸資産	3,725	4,261	+536				
固定資産	3,796	3,751	△44	純資産	25,897	24,552	△1,345
総資産	29,436	28,107	△1,329	負債 純資産	29,436	28,107	△1,329
				自己資本 比率	88.0%	87.4%	△0.6pt

(百万円)

	51期 2Q累計	52期 2Q累計	増減	対前期
営業活動による キャッシュ・フロー	1,060	△1,085	△2,146	売上債権の減少や法人税等の支払いの減少はあったものの、税 前利益の減少により、収入減少。
投資活動による キャッシュ・フロー	△244	△159	+84	
フリーキャッシュ・フロー	816	△1,245	△2,061	
財務活動による キャッシュ・フロー	△600	△405	+195	
現金及び現金同等物増減	138	△1,580	△1,719	
現金及び現預金同等物残高	16,290	15,388	△902	

第2四半期の進捗報告と 今後に向けた施策

近年の顧客の購買行動の変化を鑑み、BtoC販路で直接お客様へ認知拡大を図ったのち、BtoB販路拡大へ波及させスムーズな市場参入を目指す。



継続的な粗利改善による管理コストの削減・最適化を行い、
持続的な経営基盤を確保

■ 当期2Qは前期に直販部門で新たに追加した販路とプラットフォーム（BtoC販路）において好調な商品をBtoB販路への市場参入。



Makuake

歯を磨くたびに、
リフトケア^{*2}

忙しい朝も、疲れた夜も。
電動歯ブラシ×美顔器機能
深層フェイササイズ オーラルリフト

YAMAN



電動歯ブラシ型美顔器『オーラルリフト』がクラウドファンディングサイト「Makuake」の美容家電ジャンルにおいて応援購入額・歴代1位を獲得。11月より全国の家電量販にて販売を開始。今後、BtoBへの販路拡大を行い、長期的な収益基盤の構築を目指していく。

国内

「YA-MAN the store GINZA」がオープン2周年を迎えた。

▶ 「美肌光ステーション」のビジュアル公開

当社のグローバル フラッグシップストア「YA-MAN the store GINZA」が2周年を迎えた。

これを記念し、「美肌光（びはだこう）ステーション」をイメージしたビジュアルを公開。



▶ 「おうちで美顔器の日」

9月9日に当社が制定した記念日「おうちで美顔器の日」を迎えるにあたり、「ヤーマン美顔器総選挙」を開催。

東京メトロ銀座駅構内での交通広告を展開。



■ 市場ニーズに応えるべく、従来製品のアップデートモデルを開発。



人気の『リフトドライヤー』が
折り畳み式・海外でも使えるマ
ルチボルテージ仕様にアップ
デート。
ヘアケア市場での更なるシェア
拡大を目指していく。



シリーズ累計18冠のベスト
コスメ受賞したリフトロ
ージーシリーズから、アイケ
アモードを新たに搭載し、
アップデートされた上位モ
デルを発売。

長年培った美顔器技術を応用し、新カテゴリーの革新的な製品を開発。

リピート商材



ヴェールヒートソニック

美顔器発想の浸透技術を、ヘアケアに応用した、ヘアカラー・トリートメント浸透器。同時発売のヘアカラー・トリートメント剤などの消耗材リピートにつなげていく。

技術力の応用



エレキソルト

ヤーマンが長年培ってきた美顔器技術を減塩ソリューションに展開。日常の食卓に溶け込む減塩サポートシリーズが誕生。2025年度グッドデザイン金賞を受賞。

中国

2025年7月に中国国家薬品监督管理局（NMPA）より第二類医療機器として認可を取得。

▶ NMPAの認可取得

IPLクリアショットが中国NMPA認証を取得。
11月から中国国内での販売を開始。



▶ 独身の日商戦

天猫(Tmall)美容機器カテゴリで昨年に続き販売実績1位を獲得。中国国内で代理店が運営しているヤーマンブランドの店舗における独身の日期间中の売り上げが1,000万元を突破。



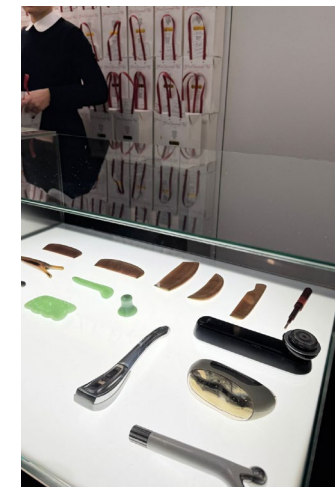
米国

ウェアラブルEMS美顔器「メディリフト アイ」が、米国FDA認証取得。当社主力商品である、美容機器の米国における本格展開、売上拡大を図っていく。



仏国

LVHM社が買収した、パリ発のラグジュアリーパーソナルケアブランド Buly（Officine Universelle Buly 1803）のパリ本店にて、初めての美容テック製品として当社製品も採用。



業績及び配当予想

現在、国内の年末商戦期や海外の大型ECイベントに向けて需要の最大化を図るべく、売上拡大施策を強化しておりますが、将来的な成長基盤を確立するための戦略的な投資と、国内事業の収益構造の抜本的改革の過渡期にあることから、今回、通期連結業績予想を修正することといたしました。

(億円)

	前回 予想	今回 予想	対前回 増減額	増減率	【参考値】 51期実績 (8ヵ月)
売上高	180.0	165.0	△15.0	△8.3%	166.9
営業利益	4.5	△8.0	△12.5	—	4.1
経常利益	4.0	△8.0	△12.0	—	2.1
当期 純利益	2.5	△14.0	△16.5	—	4.7

当社は、2028年度末までの売上高700億円達成に向けた新たな中期経営計画（2026年1月～2028年12月）の詳細について、2025年12月末までの公表を予定しておりましたが、この度、**公表時期を延期**させていただくことを決定いたしました。今回の新たな中期経営計画は、「『美顔器といえばヤーマン』の復活」と「『日本発』グローバルで通用する製品・ブランド創り」をテーマに掲げ、長期的な企業価値向上を目指すものです。この計画を、確実な実行力を持つものとするため、経営層および各部門の責任者間で経営のグランドデザインの根幹に関わる詳細な再検討と調整を進めております。

新たな中期経営計画の詳細な公表時期につきましては、**2026年3月中**を予定しております。当社は、この延期期間を活用し、国内外の市場環境を深く見極めながら、目標達成に向けてより確実性の高い、強固な基盤を持った計画を策定してまいります。

■ 当期純利益は一時的に赤字となる見込みですが、2025年6月13日公表から、変更はありません。

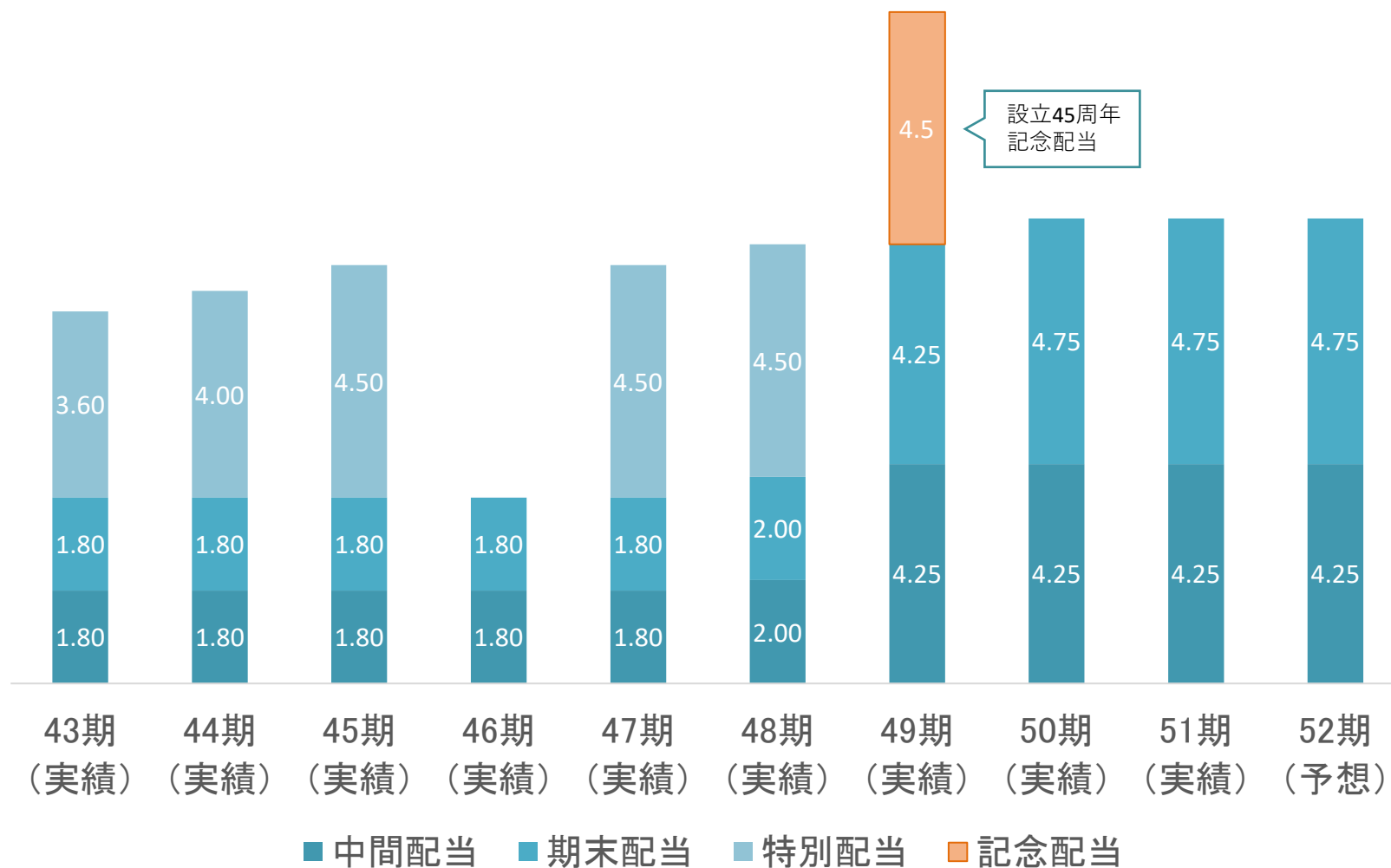
今期の配当予想は、1株当たり9.00円を見込んでいます。

(円／1株当たり)

	52期 予想	51期 実績
中間配当	4.25	4.25
期末配当	4.75	4.75
年間普通配当計	9.00	9.00

➤ 配当に関する基本方針

当社は、安定的かつ継続的な実施を基本方針としつつ、将来の成長に向けた投資や財務基盤の強化とのバランスを踏まえ、期中の業績や配当性向を総合的に勘案して決定



(注) 上記金額は、2017年11月1日付の株式分割の影響を加味したものです。

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等については、様々な要因
- により大きく異なる可能性があります。
- 本資料は皆様への情報提供を目的としており、投資を勧誘するものではありません。
- 本資料のご利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料のご利用の結果生じたいかなる損害についても、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。